



これまで25年以上にわたり実施してきた農業・商工業の総合イベント「産業フェスティバル」について、昨年、一昨年とコロナ禍によって中止となったことから、この期間を活用し、時代にマッチしたイベントのあり方を検討してきました。

その結果、農業、商工業の各分野において、地域課題の解決に資するような、かつ小回りが利いて、まちなかの活性化につながるイベント等へシフトすべきとし、本年2月の産業フェスティバル実行委員会において了承され、実行委員会を発展的に解散しました。

今回の「未来の農業フェア」は、産業フェスティバル後の第1回目のイベントであり、市民の皆さんに少しでも農業の現状を知っていただき、これからの農業を一緒に考えて頂く機会として開催するものです。

なお、10月1日(土)には、tetteを会場として「すかがわ商工フェスタ&食の感謝祭～持続可能な地域経済・新たな時代へ～」を開催する予定です。

【基調講演講師・シンポジウムパネラー紹介】

基調講演

やまもと しんや

農林水産省東北農政局 地方参事官 **山本 真也** 氏

私たち農林水産省は、生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していくことを使命としています（ビジョン・ステートメント）。この食や環境に、最近、いろんな変化が起こっています。地域と地球の将来を見据え、皆が同じ方向を向いて持続可能な食料システムを作ることが急務と考えています。出身は京都市で、琵琶湖の水で育ちました。京都の銀閣寺に咲く牡丹は須賀川の牡丹らしくて、繋がりを感じています。



シンポジウム

いとう だいすけ

パネラー (株)ジェイラップ 代表取締役社長 **伊藤 大輔** 氏

私共は、1993年創業今年で30周年を迎える企業です。『農業が元気なら人は生きていける』をスローガンに活動しております。主たる事業は、農産物生産・仕入販売・農作業受託・農業資材製造販売・農産加工・各種委託加工・産地事務局・キッチンカー事業を行っております。その中で私共が最も注力して来たことが『産地のブランディング』です。個々人が大将になるのではなく、産地全体の品質向上を目標に、情報を共有し仲間と共に実現してきました。そして今、次世代に繋ぐ農業を模索する中で、須賀川市では第一号となる「再エネ×農業」の設備が竣工しました。この設備の利用を通して、雇用の創出、技術継承の場として役立てていきたいと思っております。今後も地域農業の活性化はもとより、持続可能な地域循環型農業を目指してまいります。



はしもと かつよし

パネラー (株)福島タネセンター 代表取締役 **橋本 克美** 氏

須賀川市の名産であるキュウリの栽培を通じ、地域の農業を守り、かつ農業は辛い/儲からない/不安定といったネガティブなイメージから脱却させることが使命との想いから、キュウリ栽培の様々な最新研究開発をスタート。キュウリでは珍しい水耕栽培による「つるおろし栽培」を採用。各種環境制御システム(センサー、クラウド管理)の導入、廃液管理システムによる環境負荷の低減、再生可能エネルギーの採用(開発中)、LED補光による成長促進(試験中)、収穫ロボットによる労務負荷の軽減(開発中)など、先進の農業に取り組んでいます。



【裏面に続きます】

たるかわ ちかこ

パネラー アルファ電子(株) 専務取締役 樽川 千香子 氏



短大卒業後、介護職、結婚、出産、大病を経て東日本大震災をきっかけに、2015年に家業である、アルファ電子に入社。同社は祖父が創業し、父が現社長を務め、創業53年目を迎える。3代目として事業を承継するなかで、永続して発展する企業を目指し”異業種への参入”を自ら進め、食と農業の事業を立ち上げ、米粉麺「う米めん」を開発、生キクラゲの生産販売も新たに開始し、県内での認知度を広めています。一児の母として、子育てする親たちに寄り添える商品開発に取り組んでいます。

しだら てつや

パネラー JA夢みなみ 青年連盟委員長 設楽 哲也 氏



須賀川市出身。大学卒業後、旅行会社・小学校勤務を経て、家業の農家を継ぐ。米やきゅうり、里芋、ねぎ、ウドを家族で丹精込めて栽培し、JA、直売所、八百屋、県内外の飲食店やパン屋、和菓子屋等へ出荷しています。特定非営利活動法人OYAKODO(おやこどう)ふくしま代表理事、野菜ソムリエ、食育指導士として、自治体や民間企業・団体、教育機関、医療機関、飲食店、パン屋、和菓子屋等と連携し、商品開発や親子向け～大人向けまで、幅広い年齢層に対して食育活動・食農教育活動に取り組んでいます。また、県内外で講演活動も行っています。

てらやま さちこ

パネラー (株)阿部農縁 代表取締役 寺山 佐智子 氏



農家の長女として須賀川市に生まれ、公立岩瀬病院にて看護師・ケアマネージャーとして20年近く勤務し、その後就農。震災後、6次化を積極的に進め、平成24年12月に法人化し代表取締役に就任。食と農と人で元気を届ける活動を進めています。

なかやち よしあき

パネラー (株)バイオマスレジンはホールディングス 取締役副社長 中谷内 美昭 氏



わたしたちバイオマスレジンはホールディングスは、お米に代表される国産バイオマス資源を活用したプラスチック樹脂原料「バイオマスレジン」の製造販売をベースに、それらを活用したマーケティングやエンジニアリングなど幅広い分野における活動を行っています。

バイオマスレジンはホールディングスの設立前、日本におけるバイオマス関連事業創成期の2005年に事業をスタートしました。それ以来、今日に至るまで、この分野のビジネスとしての無限の可能性と地球規模の環境配慮への責務、そして持ち前の諦めの悪さで、幾多の荒波を乗り越え、技術革新を行い続けてきました。

そして今、日本やアジアで大切な資源であるお米由来のバイオマスプラスチック「ライスレジン」や生分解性プラスチック「ネオリザ」といった環境配慮型プラスチックの製造販売をベースに、海洋汚染や地球温暖化、フードロスなど世界規模の社会課題に対峙しています。

一方、国内の農業問題や地域活性などの身近な社会課題にも日本各地で展開するグループ会社と連携し、我々にしか出来ない解決法で取り組んでいます。「Plastic innovation for tomorrow」をスローガンに、社会から真に必要とされるインクルーシブな組織をつくり、日本からアジア、そして世界に向けて全力で挑戦してまいります。

さくま たかし

コーディネーター 須賀川市 経済環境部長 佐久間 貴士



須賀川市の基幹的農業従事者の人口は、20年前に比べ27%減少し、平均年齢は8.8歳上昇して67.2歳となっています。農業従事者の減少は全国的な課題であり、食料自給率の低下や農地・山林の荒廃による自然災害のリスクなどを招く恐れがあります。また、最近ではロシアのウクライナへの軍事侵襲により、改めて食料の安全保障問題に大きな関心が寄せられています。このような状況を踏まえ、市民の皆さんと一緒に今の農業の現状に目を向け、未来の農業を語り合いたいと考えています。そして、少しでも若い人たちに農業の魅力を感じていただければと思っています。コーディネーター役は初めてであり不安ですが、お役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。